（５）特別支援教育研究会（通常学級）

会　長　村松　人巳（中村小）
副会長　山﨑　友美（利岡小）
事務局　岡田　明子（具同小）

１．研究主題「一人ひとりに応じた支援を通して、子どもたが生き生きと学べる授業づくり」

２．研究経過

実施年月日	研 究 の あ ら ま し	会場	備考
令和６年 ５月７日(火)	四万十市教育研究会　組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	市立中村中学校	
８月２日(金)	四万十市教育研究会　夏季研修会 内容：グループ協議・講演・演習 講師：奥宮　智子指導主事（西部教育事務所）	中村小学校	２４名参加

３．夏季研修会

今年度の夏季研修会では、最初に６つのグループに分かれ日頃の児童生徒との関わりで困っていること等を出し合い、支援方法を考えた。協議では、タブレット（ジャムボード）を使用し、各グループで話し合ったことを代表が発表して全体共有し、西部教育事務所　奥宮智子指導主事にご助言をいただいた。

協議後には、奥宮指導主事から、「通常学級における特別な支援が必要な児童生徒への支援方法や手立てについて」と題して、発達障害等の特性理解と対応、ユニバーサルに基づく授業づくり、通級による指導等についてご講話いただいた。また、演習では、事例を通して、子どもの抱える困難さから考えられる合理的配慮について検討し、アイデアを出し合った。子どもの抱える課題を整理することで、どのような配慮が必要なのかが見えてくることを学んだ。

【グループ協議の感想】

・各学校、先生方の困り感を聞きながら、共通の悩みを抱えながら日々実践されていると感じた。全体共有し支援方法を考える中で、教師間の連携が大切だと再認識することができた。また、他のグループから出された「周りの子に協力してもらう体制をつくる」という支援方法も２学期から取り組んでいきたいと思った。

・異経験年数や多様な校務分掌にあるグループの中で互いの困り感を共有し、支援方法を一緒に考え、自分では思いつかなかった切り口からの手立てを交流することができ、２学期からすぐに活かせる協議となった。

・校種の違う先生との共有ができていい時間となった。共有しながら自校の取り組みを振り返る中で、「できることはできる。でも無理なものは無理」の仕分けも必要だと感じた。抱え込みすぎず、できることからやっていこうと思った。

・困っている児童へのアセスメントを行うことが困り感の見立てにつながることや、医療機関・専門機関と連携して支援体制を整えることが必要だと学んだ。

・様々な小学校、中学校の先生方と悩みを相談し合うことができた。その中で経験から手立てを共有できたり、専科や中学校の先生など学級担任ではなくたくさんの児童生徒と関わる先生は、学級担任との連携や引継ぎシートがある場合は確認したりなど、２学期にむけて実践できることも多くあったので試していきたい。

・学級担任や児童生徒と関わりをもつ先生方の困り感から、養護教諭として支援できることがあると学んだ。

【講演の感想】

・子どもの困り感の背景を考え、そこから支援策を講じていくことの大切さを教えていただいた。手立てを講じてみて、うまくいかなければ次の手立てを考えていき、困り感を持っている子どもたち自身が、「これだったら集中できる、この方法だったら解きやすい、分かりやすい」等、自分に合った学び方、覚え方、分かりやすい方法のコツをつかむことができるよう、学校全体で取り組んでいくことが必要だと感じた。

・ユニバーサルデザインに基づく授業づくりを具体的に教えていただいた。２学期の実践に活かしていきたいと思った。

・「インクル DB」について知ることができてよかった。校内で共有していきたい。

・「インクル DB」の存在、活用について教えていただいたので、基礎的環境整備や合理的配慮等参考にしていきたい。

・１st ステージの支援の充実によって、個別支援が必要な生徒への追加支援が減るというお話から、ユニバーサルデザインの視点からも、見通しのもてる「めあて」を子どもと共有することは大切なのだと再認識した。

・これまでは「支援の必要な子とそうでない子」を分けて考えていたが、まずはみんなにとって学びの見通しがもてる授業を行い、そのうえで個別の支援をチームで考えていきたい。

・子どもが困っていることを本人、保護者の方、周りの先生方と共有することが大切だと感じた。支援会だけでなく、普段から子どもたちの様子や中学校進学に向けての話ができる関係を築いていくことも必要だと感じた。２学期からもその子どもの言動の背景に目を向けて、支援や合理的配慮を考え実行していきたい。

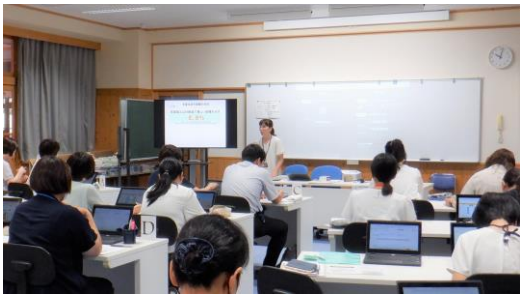
４．今年度の成果と課題

〇成果

・夏季研修会では、悩みを共有することで意識が高まり、講演では具体的な支援策を教えていただき、支援や指導方法について学びを深めることができた。

・合理的配慮について学び、一人ひとりに寄り添った支援、学校として連携して取り組んでいくことの大切さを再確認することができた。また、参加教員の困り感の軽減、２学期以降の実践につながる研修となった。

・「インクル DB」（インクルーシブ教育システム構築データベース）について教えていただき、基礎的環境整備や合理的配慮について参考となる情報を得る方法を知ることができた。

●課題

・研修会で使用する機器の設営等は、事前の打ち合わせ、準備が必要であった。